

律神経学会の今後益々の発展を願い、見据えた取り組みも、今回の学会が注力した部分です。これを機会に、日本自律神経学会、そして我が国の自律神経学が更なる発展を遂げることを、心より祈念いたしております。

なお、本学会のサテライト企画として、学会終了翌日の平成二十八年十一月十二日に熊本日日新聞本社において市民公開講座「知っておきたい自律神経の話ー熊本地震を経験して」を開催しましたことも、併せて報告させていただきました。被災経験を生かして、一般市民の方々に自律神経に関する知識を少しでも身につけていただきたいとの目的で企画した本市民講座には、総勢一五〇余名一般市民の方にご参加いただきました。当日の講師を務めた神経内科助教の高松孝太郎先生、増田曜章先生と参加者との間では、非常に活発な質疑応答も繰り広げられ、非常に有意義な時間を作ることができたと考えております。

今回の学会は、熊本大学第一内科、神経内科の同門の先生方をはじめ、多数の熊本大学同窓会の先生方、神経内科の医局員、熊本県内の医療施設、共催や協賛をいただきました各企業、熊本市コンベンション協会、会員懇親会を盛り上げていただきました代継太鼓保存会や熊本城調査研究センターの皆様方、ならびに肥後医育振興会のご協力により、成功裏に終了したものです。熊本地震直後の混乱

の中、ご対応いただきました関係各位には、この場を借りまして深く御礼申し上げます。

第一〇八回日本消化器病学会九州支部例会を終えて

熊本大学大学院生命科学研究部
消化器内科学分野教授 佐々木 裕

二〇一六年十一月二十五日（金）・二十六日（土）の二日間、ホテル日航熊本にて第一〇八回日本消化器病学会九州支部例会と第一〇二回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（会長 地域医療機能推進機構熊本総合病院副院長 吉松眞一先生）の合同例会を開催し、成功裏に終了いたしました。

合同例会では「消化器病診療の未来を見据えてー九州からの新たな提言ー」というメインテーマのもとに、シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップの計八つの主題演題を企画しましたが、消化器病の病態解明や治療、消化器内視鏡による診断法・治療法について、最新の研究内容をご発表いただき、これからの方向性について演者とフロアが一体となって討論が交わされました。また専修医・研修医発表では、若手の先生たちの活気にあふれる発表に感銘しました。また、第一〇八回日本消化器病学会九州支部例会特別講演として、慶應義塾大学 金井隆典教授には、炎症性腸疾

患に対する生薬、中でも青黛の有効性を歴史的な背景を含めてご講演いただき、今後患者数が増加の一途をたどる炎症性腸疾患の新たな治療法の可能性をご教示いただきました。二日間を通して素晴らしい内容の発表と活気のある討論で盛り上がった合同例会であり、九州から新しい情報発信ができたこと確信しております。第一日日夜の情報交換会にも非常に多くの先生方にご参加賜り、熊本の焼酎や地元料理を楽しんでいただきました。先生方の親睦がさらに深まったものと思えます。その後、多くの先生方が街中へ繰り出されたようですが、熊本に経済的な支援をしていた、いただいたものと思えます。今回の合同例会は熊本地震復興の半ば

での開催でございましたので、ある意味、支援という形で九州全域から多くの先生方にご参加いただいたものと思えます。参加された先生方には宿泊等で何かとご不便とご不自由をおかけしましたが、約三〇〇題の演題をご応募賜り、約一〇〇〇名の先生方にご参加いただけたことに九州管内の先生方の暖かいお気持ちをおとることができました。このような活気のある合同例会を熊本で開催できまして、復興の一助になっておれば幸いです。

最後になりましたが、合同例会の開催にあたり、ご支援いただきました肥後医育振興会、ならびに熊本大学消化器内科同門会の先生方に心より御礼を申し上げます。

第一〇二回日本消化器内視鏡学会九州支部例会の報告

独立行政法人地域医療機能推進機構
熊本総合病院副院長 吉松 眞一

平成二十八年十一月二十五日、二十六日の二日間、ホテル日航熊本にて第一〇二回日本消化器内視鏡学会九州支部例会を開催いたしました。第一〇八回日本消化器病学会九州支部例会（熊本大学消化器内科教授 佐々木裕会長）との共同開催となりました。熊本での内視鏡学会支部例会の開催は第八十八回（明石隆吉会長）以来、七年ぶりとなります。メイン



慶應義塾大学 金井隆典教授による特別講演の様子